

# IV 救 急 編



## 1 救急活動概要

当市は昭和39年7月の救急業務開始以来、社会経済活動の進展に伴い年々その体制が整備され、現在8救急隊（うち、1隊は白糠町消防事務委託）を運用し、市民の生命・身体を守る上で必要不可欠な行政サービスとして定着している。

そのような中、救急救命士制度の導入や救急隊員の行う応急処置等の範囲の拡大に伴い、全救急隊に高規格救急車の導入および救急隊員の教育訓練体制の整備を図るなど、救急業務の高度化の拡充に取り組んでいるところである。

今後は、関係機関との連携を強化するとともに、市民に対する応急手当の普及啓発活動を推進し、より一層の救命効果の向上を目指す。

- ① 救急救命士の育成・・・有資格者数66人
- ② 市民による応急手当普及啓発活動の推進  
「応急手当の普及啓発活動の推進に関する要綱」（H19.10.11 施行）
- ③ メディカルコントロール体制の構築  
釧路・根室圏メディカルコントロール協議会の設立（H15.3.26）
- ④ 医師による包括的指示下での除細動の実施（H15.8.1 開始）
- ⑤ 気管挿管可能な救急救命士2名を養成し、高度な救急救命処置が行える体制を整備（H18.8.1 開始）
- ⑥ 処置拡大2行為可能な救急救命士4名を養成し、高度な救急救命処置が行える体制を整備（H27.11.1 開始）
- ⑦ ビデオ硬性喉頭鏡による気管挿管可能な救急救命士3名を養成し、高度な救急救命処置が行える体制を整備（H27.12.17 開始）
- ⑧ 一般市民が行うAEDを用いた心肺蘇生法の普及に努め、救命効果の向上を図った。
- ⑨ 救急需要抑制対策として、市のホームページ、マスメディア等を活用し、救急車の適正利用をPRした。

(1) 年次別救急出動件数及び搬送人員

平成28年の救急出動件数は9,478件、搬送人員8,550人で、前年に比べ出動件数においては204件(2.20%)の増加、搬送人員においても115人(1.36%)増加した。

これは、管轄区域の住民21.4人に1人が救急車によって搬送され、また、1日平均25.9件、55.5分に1回出動したことになる。搬送人員を男女別にみると男性4,236人(49.5%)、女性4,314人(50.5%)となっている。

救急出動件数及び搬送人員の推移をみると、表1のとおりである。

表1 年次別救急出動状況の推移(過去5カ年)

年別 区分	S39年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年
出動件数	145	9,654 (564)	9,482 (568)	9,336 (552)	9,274 (492)	9,478 (467)
搬送人員	119	8,869 (529)	8,623 (539)	8,498 (504)	8,435 (466)	8,550 (423)
1日平均件数	0.4	26.4	26.0	25.6	25.4	25.9

※ 昭和39年は7月から業務開始。

※ ( )内は白糠支署の出動件数及び搬送人員。

(2) 平成28年中の救急出動状況等

救急出動件数を事故種別ごとにみると、表2のとおり急病が最も多く、次いで一般負傷、転院、交通事故の順となっている。その他統計資料を以下の表に示す。

表2 事故種別救急出動件数の全件数に対する割合

種別 区分	火災	自然 災害	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他				合計
											転院	医師	資器材	その他	
件数	60	2	5	407	69	52	1,119	32	105	6,395	1,105	0	0	127	9,478
割合	0.6%	0.0%	0.1%	4.3%	0.7%	0.5%	11.8%	0.3%	1.1%	67.5%	11.7%	0.0%	0.0%	1.5%	100%

表3 月別救急出動状況

月 区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
件数	809	817	777	767	666	771	797	799	783	811	746	935	9,478
搬送人員	731	715	688	687	595	703	716	718	731	744	685	837	8,550

表4 曜日別救急出動状況

曜日 区分	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	合計
日数	52	52	52	52	52	53	53	366
件数	1,317	1,437	1,323	1,274	1,403	1,379	1,345	9,478
1日平均	25.33	27.6	25.4	24.5	27.0	26.0	25.4	25.9

表5 時間別救急出動状況と急病の状況

区分	0~2	2~4	4~6	6~8	8~10	10~12	12~14	14~16	16~18	18~20	20~22	22~24	合計
件数	484	371	357	685	1,112	1,184	1,022	976	992	916	759	620	9,478
急病	356	290	292	535	756	695	577	597	608	664	564	461	6,395

表6 年齢別搬送人員状況

区分	新生児	乳幼児	少年	18~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65歳以上	合計
人数	1	237	226	412	396	625	740	541	5,372	8,550
割合	0.0%	2.8%	2.6%	4.8%	4.6%	7.3%	8.7%	6.3%	62.8%	100%

\* 年齢区分……新生児 → 生後28日未満の者  
 乳幼児 → 生後28日以上～7歳未満の者  
 少年 → 7歳以上～18歳未満の者

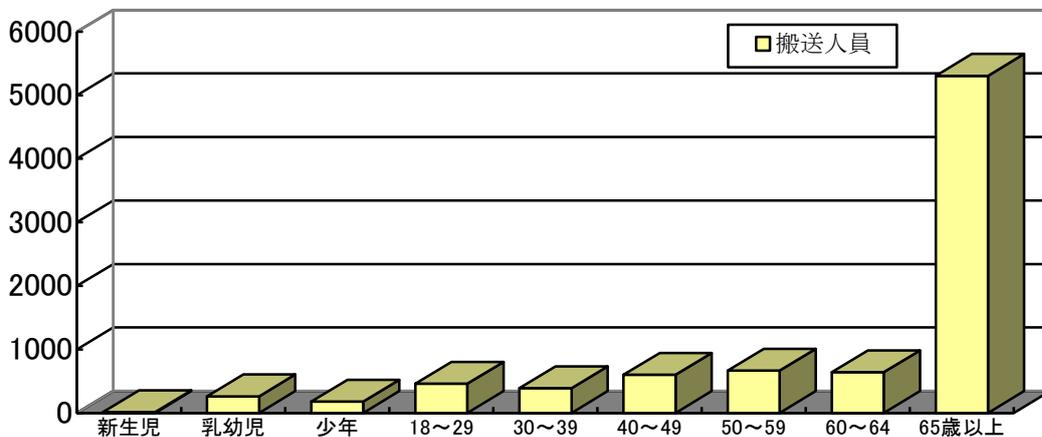


表 7 傷病程度別搬送人員状況

程 度	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	合 計
搬送人員	155	1,025	3,782	3,584	4	8,550

※ 傷病程度区分

死 亡→初診時に死亡確認したもの

重 症→3週間以上の入院が必要なもの

中等症→入院が必要で重症に至らないもの

軽 症→入院を必要としないもの

その他→医師の診断が無いもの、医療機関以外へ搬送したもの

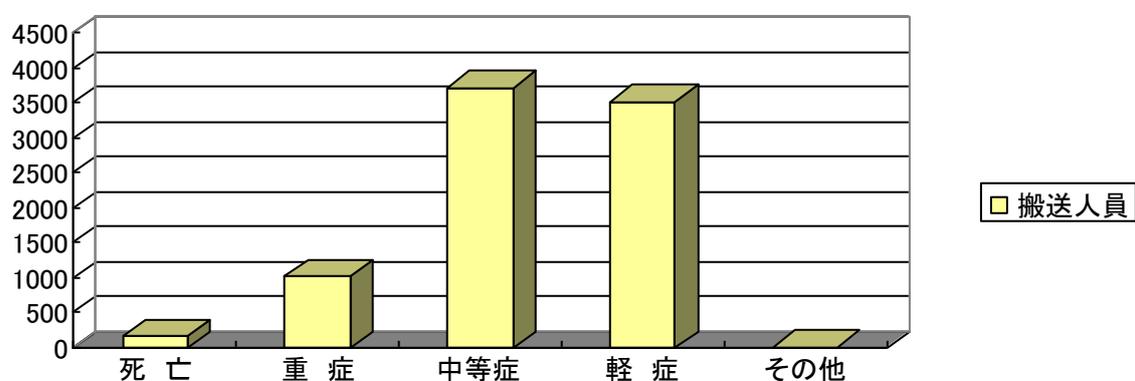


表 8 救急隊員が行なった応急処置

応 急 処 置	件 数	応 急 処 置	件 数
止血・被覆	515	聴診	1,263
固定	585	血中酸素飽和度測定	8,322
人工呼吸	26	心電図波形観察	3,161
心肺蘇生	216	除細動	18
酸素吸入	2,166	血糖測定	53
気道確保	333	器具を用いた気道確保 (特定行為)	59
異物除去	6	静脈路確保 (特定行為)	66
保温	70	薬剤投与 (特定行為)	39
在宅療法継続	332	ブドウ糖投与 (特定行為)	12
血圧測定	7,824	その他	7,989
合 計		33,055	

表 9 救命講習実施状況

区分	対 象	消防職員	消防団員	事業所	町内会	自主防 災組織	学校関係	団体 グループ	その他	合 計
		回数								
上級救命講習	回数								2	2
	人員								33	33
普通救命講習	回数			11		3	3		18	35
	人員			120		15	10		182	327
一般救急講習	回数		2	43	5	6	82	22	33	193
	人員		26	613	272	81	3,347	337	561	5,237
救命入門コース	回数							1		1
	人員							26		26
普及員・指導員 養成講習	回数	5							2	7
	人員	5							10	15
上級救命再講習	回数								4	4
	人員								4	4
普通救命再講習	回数			17		6	3	3	22	51
	人員			106		71	37	50	97	361
普及員再講習	回数			4					2	6
	人員			17					3	20
合 計	回数	5	2	75	5	15	88	26	83	299
	人員	5	26	856	272	167	3,394	413	890	6,023

表 10 過去5カ年の救命講習実施状況の推移

区分	年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
	実施回数		289	278	310	264
受講者数		7,785	6,178	6,423	6,139	6,023

